

科目名		機材メンテナンスII		担当講師		福岡 博美	
講師実務経験		音響/録音エンジニア					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオレコーディング専攻		授業形態	演習
期 間		5期・6期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
5期		XLRコネクタ/TRSフォンコネクタを使用したケーブル作成の処理を修得する。					
6期		音響機器のしくみとメンテナンスの方法を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月18日	授業ガイダンス、ケーブル、コネクタの種類などの復習					
2	4月25日	TRSフォンコネクタ/RCAプラグのしくみ用途について					
3	5月9日	XLR-TRSケーブル作製 適した長さで被覆剥き～予備ハンダ					
4	5月16日	XLR-TRSケーブル作製 適した長さで被覆剥き～予備ハンダ～完成まで					
5	5月23日	RCA-TRSケーブル作製 適した長さで被覆剥き～予備ハンダ					
6	5月30日	RCA-TRSケーブル作製 適した長さで被覆剥き～予備ハンダ～完成まで					
7	6月6日	コネクタケーブルの導通チェック/テスターの使用方法					
8	6月13日	音響機器の中を覗いてみる、ヘッドフォン、スピーカー、マイク、その他					
9	6月20日	各種音響機材のしくみとメンテナンス					
10	6月27日	各種音響機材のしくみとメンテナンス、壊れやすい箇所と修理方法					
11	7月4日	実技修得度確認①					
12	8月22日	実技修得度確認②					
13	8月29日	前期講義まとめと試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技修得度評価時期・方法:修得度確認作業あり					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		なし					
注意事項		24時間中9時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		MA実習Ⅲ		担当講師		田 莉子 和之	
講師実務経験		音楽・番組制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオサウンド 専攻		授業形態	実習
期 間		5期・6期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
5期		ビデオ制作における音声編集の知識と技術を修得する。					
6期		ビデオ制作における音声編集の知識と技術を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月18日	授業ガイダンス／MAの概要・知識について					
2	4月25日	作業準備 ／ ダイアログの整音(1)					
3	5月9日	作業準備 ／ ダイアログの整音(2)					
4	5月16日	ナレーション・アフレコの収録(1)					
5	5月23日	ナレーション・アフレコの収録(2)					
6	5月30日	ナレーション・アフレコの整音(1)					
7	6月6日	ナレーション・アフレコの整音(2)					
8	6月13日	音楽や効果音の仕込みについて(1)					
9	6月20日	音楽や効果音の仕込みについて(2)					
10	6月27日	音楽や効果音の整音(2) ／ ミックスについて(1)					
11	7月4日	音楽や効果音の整音(2) ／ ミックスについて(2)					
12	8月22日	実技習得度判定試験					
13	8月29日	定期試験対策 ／ まとめ					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 実技習得度評価時期・方法:6期・作品評価					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習Ⅲ		担当講師		八幡 淳	
講師実務経験		FM NORTH WAVE、AIR-G'、HBCラジオ、STVラジオでパーソナリティ、コミュニティFM(エフエムアップル、FMおたる)での番組制作					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		5期・6期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
5期		ラジオの存在意義～番組制作までを修得する。					
6期		番組制作の基礎～番組制作の応用までを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月20日	ラジオとは？：公共性を学ぶ					
2	4月27日	ラジオの存在意義：有益な番組作りとは？					
3	5月18日	各機材の役割と使用方法。基準の取り方。					
4	5月25日	伝えるとは？Ⅰ：番組の企画書・キューシートの役割					
5	6月1日	企画書を基にした番組制作					
6	6月8日	制作した番組の収録と検聴					
7	6月15日	伝えるとは？Ⅱ：起承転結・事象の理解を深める					
8	6月22日	起承転結・事象の理解を深めた番組制作					
9	6月29日	制作した番組の収録と検聴					
10	7月6日	屋外収録+屋外でのネタ作りを学ぶ					
11	8月17日	収録したものを生かした番組制作					
12	8月24日	制作した番組の収録					
13	8月31日	制作した番組の検聴					
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法：B					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中の14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽概論		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		作曲家・プロギタリスト					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオレコーディング専攻		授業形態	講義
期 間		5期・6期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
5期		音楽産業の仕組みを修得する。					
6期		エンジニアと演奏家の関係性を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月19日	授業ガイダンス					
2	4月26日	音楽産業について					
3	5月10日	レコード会社について(メジャーレーベル)					
4	5月17日	レコード会社について(ミニメジャー・インディーズ)					
5	5月24日	プロダクションについて					
6	5月31日	ミキシングについて(ライヴ・スタジオ)					
7	6月7日	さまざまな楽器の録音について(西洋楽器)					
8	6月14日	さまざまな楽器の録音について(邦楽器)					
9	6月21日	エンジニアと演奏家・プロデューサーとのコミュニケーション					
10	6月28日	専門用語について					
11	7月5日	Agの録音に於ける特性について					
12	8月23日	ギタリスト・発明家のレスポール氏の功績について					
13	8月30日	プロデューサーとディレクターについて / 試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		評価方法:A					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		著作権論		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		作曲家・JASRAC会員					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオレコーディング専攻		授業形態	講義
期 間		5期・6期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
5期		音楽に関する著作権の種類について修得する。					
6期		著作権の管理方法について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月19日	授業ガイダンス					
2	4月26日	日本に於ける著作権法について					
3	5月10日	著作権の保護期間について					
4	5月17日	著作権・隣接権(支分権)について					
5	5月24日	著作権の譲渡について					
6	5月31日	肖像権について					
7	6月7日	複製権について					
8	6月14日	氏名表示権について					
9	6月21日	同一性保持権について					
10	6月28日	公衆送信権について					
11	7月5日	展示権・頒布権・口述権・貸与権について					
12	8月23日	CISAC・JASRAC・MPNIについて(管理)					
13	8月30日	著作権と音楽出版会社について / 試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		評価方法:A					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽基礎		担当講師		作山 厚	
講師実務経験		ESP MUSIC SCHOOL ベース講師経験 / 洗足学園魚津短期大学音楽科コントラバス専攻卒					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	講義
期 間		5期・6期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
5期		コード進行の基本を理解し修得する。					
6期		コード進行を深く理解し修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月20日	授業ガイダンス / コード進行 ～アレンジについて①～					
2	4月27日	～アレンジについて②～					
3	5月18日	～アレンジについて③～					
4	5月25日	～アレンジについて④～					
5	6月1日	～アレンジについて⑥～					
6	6月8日	～アレンジについて⑦～					
7	6月15日	～アレンジについて⑧～					
8	6月22日	～アレンジについて⑨～					
9	6月29日	～アレンジについて⑩～					
10	7月6日	～アレンジについて⑪～					
11	8月17日	～アレンジについて⑫～					
12	8月24日	～アレンジについて⑬～					
13	8月31日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 評価方法:A					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		REC実習Ⅲ		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		株式会社スタジオバードマン勤務(平成5年～平成13年)					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		5、6期	総授業回数	26 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
5期		ライブ録音(映像との同時録音)を修得する。					
6期		スタジオでの録音の概要～応用を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	スタジオシステムの復習					
2	4月20日	基本実習①(結線・セッティング)					
3	4月21日	基本実習①(結線・セッティング)					
4	4月27日	ライブ録音実習①(立上げ～セットアップ)					
5	4月28日	ライブ録音実習①(立上げ～セットアップ)					
6	5月18日	スタジオ録音の基本①(学内基礎セッティングの概要)					
7	5月19日	スタジオ録音の基本①(学内基礎セッティングの概要)					
8	5月25日	スタジオ録音の基本②(学内基礎セッティングの概要)					
9	5月26日	スタジオ録音の基本②(学内基礎セッティングの概要)					
10	6月1日	コンソールミックスの基本①(アウトボードを使用してのアナログミックス)					
11	6月2日	コンソールミックスの基本①(アウトボードを使用してのアナログミックス)					
12	6月8日	コンソールミックスの基本②(アウトボードを使用してのアナログミックス)					
13	6月9日	コンソールミックスの基本②(アウトボードを使用してのアナログミックス)					
14	6月15日	ProToolsミックスの基本①(外部機器を繋いでのオペレーション)					
15	6月16日	ProToolsミックスの基本①(外部機器を繋いでのオペレーション)					
16	6月22日	コンソール・ProTools両方使ってのハイブリットミックスの基本①					
17	6月23日	コンソール・ProTools両方使ってのハイブリットミックスの基本①					
18	6月29日	コンソール・ProTools両方使ってのハイブリットミックスの基本②					
19	6月30日	コンソール・ProTools両方使ってのハイブリットミックスの基本②					
20	7月6日	コンソール・ProTools両方使ってのハイブリットミックスの基本①					
21	7月7日	コンソール・ProTools両方使ってのハイブリットミックスの基本①					
22	8月17日	コンソール・ProTools両方使ってのハイブリットミックスの基本②					
23	8月18日	コンソール・ProTools両方使ってのハイブリットミックスの基本②					
24	8月24日	録音実践①					
25	8月25日	録音実践②					
26	8月31日	録音実践③					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		78時間中27時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		DTM実習		担当講師		作山 厚	
講師実務経験		楽曲配信経験 / BGMサイト楽曲提供 /DTMレッスン教室運営経験					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		5期・6期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
5期		トレンドを取り入れた曲作りの基礎を修得する。					
6期		楽曲アレンジをより深く理解し修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月20日	授業ガイダンス / DTM作曲実習① / EDM研究①					
2	4月27日	DTM作曲実習② / EDM研究②					
3	5月18日	DTM作曲実習③ / EDM研究③					
4	5月25日	DTM作曲実習④ / EDM研究④					
5	6月1日	DTM作曲実習⑤ / EDM研究⑤					
6	6月8日	DTM作曲実習⑥ / EDM研究⑥					
7	6月15日	DTM作曲実習⑦ / EDM研究⑦					
8	6月22日	DTM作曲実習⑧ / EDM研究⑧					
9	6月29日	DTM作曲実習⑨ / ビードメイク研究①					
10	7月6日	DTM作曲実習⑩ / ビードメイク研究②					
11	8月17日	DTM作曲実習⑪ / ベースアレンジ研究①					
12	8月24日	DTM作曲実習⑫ / ベースアレンジ研究②					
13	8月31日	DTM作曲実習⑬ / スtringス研究③					
評価方法		作品提出評価(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		評価方法:C					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		26時間中9時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ProTools実習Ⅲ		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		株式会社スタジオバードマン勤務(平成5年～平成13年)					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		5～6期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
5期		ProToolsの各種モードの基礎を踏まえ、別の授業で録音した素材の編集を行い、音の素材に対する的確な編集方法を修得する。					
6期		録音素材を基に、オートメーションを使用してのミックス方法を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	1年次に学んだ基礎の復習を行い、不明点等については再確認を行い、正しい基礎知識を習得する。					
2	4月21日	それぞれの編集モードとショートカットの復習確認を行い、スムーズに操作できているか確認を行う。不明点等については再確認を行い、正しい基礎技術を習得します。					
3	4月28日	別授業で録音した素材(1～3曲)を使用し、全ての編集機能を使用して、編集作業を行う。1トラック20分以内の目途で実施。					
4	5月19日	別授業で録音した素材(1～3曲)を使用し、全ての編集機能を使用して、編集作業を行う。1トラック15分以内を目標とする。					
5	5月26日	別授業で録音した素材(1～3曲)を使用し、全ての編集機能を使用して、編集作業を行う。1トラック10分以内を目標とする。					
6	6月2日	プレイリストのデータを基にそれぞれのテイクを張り付けてOKテイクの作成方法を学び、習得する。					
7	6月9日	オートメーションの考え方と、できる事、操作方法を理解する。					
8	6月16日	録音素材を基に、各種パラメーター(レベル、ミュートのON/OFF、パンニングなど)のオートメーションの使用方法を理解し、習得する。					
9	6月23日	録音素材を使用して、オートメーションの基本操作を基に、応用的な使用方法を理解する。(ノイズの消し方、ボーカルの書き込み方、音楽的な使用方法など)					
10	6月30日	各種プラグインの種類やメーカー名、具体的なプラグインの名前を理解し、どのような効果を与えられるのか理解する。					
11	7月7日	プラグインのパラメーターを使用し、実際にオートメーションを書き込む。操作方法における、良し悪しを理解し、応用的な使用方法も学ぶ。					
12	8月18日	総合的な操作技術を使用して、音楽を完成させる①					
13	8月25日	総合的な操作技術を使用して、音楽を完成させる③					
14							
15							
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		SR技術概Ⅲ			担当講師		森本 信	
講師実務経験		レコーディングエンジニア・サウンドデザイナー・ミュージックディレクタープロダクション & アーティストマネージメントほか						
対象学年		2	学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	座学講義
期 間		5期・6期		総授業回数	13	回	1回あたりの授業時間	
期		修 得 目 標						
5期		スタジオ録音・音楽業界のシステムを修得する。						
6期		JAPRS検定対応と演習を修得する。						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	4月15日	講義内容ガイダンス						
2	4月22日	音楽業界のシステム／演習問題小テスト						
3	5月6日	音楽業界の歴史とビジネス／演習問題小テスト						
4	5月20日	音響学音響物理基礎の復習とアドバンス／演習問題小テスト						
5	5月27日	電気音響の復習とアドバンス／演習問題小テスト						
6	6月3日	電気音響機器の復習とアドバンス／演習問題小テスト						
7	6月10日	録音手法の復習とアドバンス／演習問題小テスト						
8	6月17日	ポップス録音／演習問題小テスト						
9	6月24日	ミキシング技法／演習問題小テスト						
10	7月1日	JAPRS検定試験対策／演習問題小テスト						
11	7月8日	レコーディングと次世代音響アドバンス						
12	8月19日	JAPRS検定試験解説						
13	8月26日	前期のまとめ						
14								
評価方法		A評価 定期試験(筆記試験)の素点で評価						
		平常点±10点(出席率、授業態度、取組状況など)						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト		JAPRSサウンドレコーディング技術概論、ほか						
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名		就職ガイダンス		担当講師		一岡 永	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	2年A,B組		授業形態	講義
期 間		5期・6期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
5期		主体性を持って就職活動を進める上で必要な知識を修得する。					
6期		活動の幅を持って就職内定を勝ち取る為のスキルを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス 応募書類の確認/就職活動計画					
2	4月22日	自己PR、志望動機作成対策①					
3	5月6日	面接のポイント①/面接対策実践①					
4	5月20日	オンライン面接について					
5	5月27日	メールの送り方					
6	6月3日	作文対策①					
7	6月10日	企業研修について(研修書類の説明含む)					
8	6月17日	自己PR、志望動機作成対策②					
9	6月24日	東京企業について					
10	7月1日	就職活動計画の見直し					
11	7月8日	面接のポイント②/面接対策実践②					
12	8月19日	受験促進、企業情報の提供(各業種)/受験の流れ確認					
13	8月26日	作文対策②					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		13時間中5時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		時事研究		担当講師		國本 昌秀	
講師実務経験		元HTB北海道テレビ勤務（記者・デスク、ディレクター、プロデューサーなど）					
対象学年		2 学年	対象専攻	2年A,B組		授業形態	講義
期 間		前期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
5期		ニュース・時事問題に関心を持ち、読み解く力を修得する。					
6期		ニュース・時事問題を読み解くことで、日常生活の思考・行動に活用する力を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス・ニュースとは何か					
2	4月22日	18歳成人について					
3	5月6日	ウクライナ問題について					
4	5月20日	沖縄復帰50周年について					
5	5月27日	直近のニュースについて					
6	6月3日	動物愛護法改正について					
7	6月10日	参院選挙について					
8	6月17日	直近のニュースについて					
9	6月24日	直近のニュースについて					
10	7月1日	直近のニュースについて					
11	7月8日	参院選挙について					
12	8月19日	札幌市100年について					
13	8月26日	講義振り返り					
14							
15							
評価方法		定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業でプリント配布					
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）					